

全佛通信

二月号

発行所 財団法人 全日本仏教会
 東京都中央区築地三ノ一(本願寺内)
 電話 03-313-3300
 振替東京 三三〇〇
 発行人 栗本俊道
 編集者 別所弘因
 印刷所 ルンビニ社

近づく第十一回佛教徒会議九州大会

六月三、四日福岡市で開く

毎年恒例の国内仏教徒会議は今年で第十一回を迎えることになるのであるが、この会場および開催地については、全仏当局としても現地側の要望においても多年の懸案であった西日本九州地区に実現することとなり、来る六月三日、四日の両日をもって福岡市の電気ホールで開催されることになった。

それについての第一回準備打合せ協議会は昨年十二月十一日、十二日福岡市大濠町西本願寺会館において行なわれ(議長阿理灯氏)全仏当局から狩野組織局長、吉井組織部長が出張の上、現地福岡県仏ならびに福岡市仏の幹部役員に婦人会、青年会関係役員等も参加協議の結果、大会準備事務局は当日の会場であった「福岡市大濠町西本願寺会館事務所」と定め大会準備委員長に県仏教会長の蒲池繁氏就任、副委員長に西本願寺教務

所長の北島隆啓氏が就任、事務局長に同教務所賛事村中文氏が就任その他の役員が決定され大会準備第一歩のスタートは正式に発足したのである。

全仏としてはこの機会に九州全土の組織強化に全力を注ぎ仏婦、仏青の団結をも要望し現地の熱意に訴えることになった。

現地仏教界の請け入れ態勢には役員幹部は特に燃えるような熱意をもって工業都市として活気溢る北九州の財界人、文化人と呼びかけ、会議の中心議題を格調高い聖徳太子の精神高揚につとめ、国づくり、人づくりを国内に投影し、不安と危機におののく人類社会に新しいビジョンを与えようとしている。

全仏当局では全国同信各位の多数参加を切望している。

× ×

第11回全日本佛教徒会議についてお知らせ

恒例の全日本仏教会主催第十一回仏教徒会議は左記の如く六月三、四日福岡市において開催されることに決定した。

これは地元仏教会の強い要請にもとづくもので、九州における大会開催は、はじめてのことであり、特に今回は聖徳太子の精神を現代に生かそうという意味が含まれ、地元でも、全九州を挙げて参加、着々その準備をすすめて

一、期日 昭和三十八年六月三日(月) 四日(火)

一、会場 福岡市、電気ホール

一、日程

◇第一日(六月三日)

受付 午前八、〇〇

開会式 九、〇〇

記念講演

講師 大谷派法爾、木谷光紹

総会 一一、〇〇

休憩、記念撮影、昼食

部会 午後一、〇〇

聖徳太子奉讃式典 四、二〇

◇第二日(六月四日)

総会 午前八、〇〇

部会報告、質疑応答、採決、宣言決議文発表

感謝決議、次期開催地発表、議長挨拶

閉会式 一一、〇〇
 観光出発午後 一、〇〇

一、参加申込

1、参加資格 全日本仏教会加盟各宗派、府県仏教会、各団体の推せん者

2、参加費 七百元 (申込書に添えて全仏宛送金のこと)

3、申込期限 四月末日迄

○申込者に対しては、原簿に記入の上、参加票を折り返し送付致します。

○宿泊等の関係あり、申込みは必ず、期日までにすること。

一、宿泊(旅館)

○申込所 福岡市大濠町、本願寺会館内、仏教徒大会事務局宛

○宿泊希望者は、予約金壹千円也を添えて申込むこと

○申込者に対しては、地元の旅館より直接御連絡申上げます

一、議題

聖徳太子の和の精神を現代に生かそう

一、視察、見学 (六月四日午後一時出発)

Aコース(市内観光) 箱崎宮―東公園―大濠公園

―西公園(所要時間約二時間、費用Y一四〇、―)

Bコース(市内観光)

大濠公園―西公園―箱崎宮―東公園―板付空港―都府楼跡―観世音寺―太宰府(約二時間、Y三九〇、―)

Cコース

①、市内観光―太宰府―佐賀―嬉野(泊)―長崎―雲仙(泊)―熊本―阿蘇―内取(泊)―高崎山―別府(三泊四日、Y七、〇〇〇、―)

②、バスセンター佐賀―雲仙(泊)―熊本―内取(泊)―阿蘇―高崎山―別府北浜(泊) (三泊四日、Y六、八〇〇、―)

Dコース(九州一周) 福岡―熊本―日奈久(泊)―水俣―川内―鹿児島―指宿(泊)―桜島―霧島(泊)―都城―鶴戸―宮崎(泊)―日向―延岡―高千穂―戸下(泊)―阿蘇―竹田―高崎山―別府(泊) (六泊七日、Y一、二、七〇〇、―)

備考

1、参加費は全仏へ。

2、観光費、宿泊費は福岡市大濠町本願寺会館へ。

3、参加費、宿泊予約金、観光費其の他の費用で、納入後不参加の場合は、事務の整理上お返ししません。

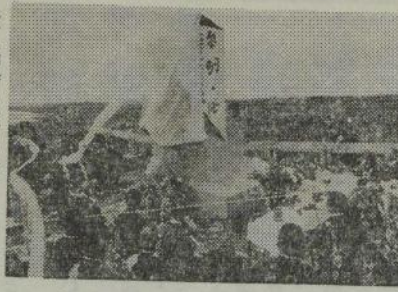
4、参加票をお持ちにならないと入場出来ません。

5、其の他不明の点は、全仏又は福岡市の大会事務局へ。(詳細後報)

激戦の地、沖繩 「れいめいの塔」において

全仏主催の慰霊祭執行さる

沖繩戦終結十七周年戦没者慰霊祭が、日本、琉球両政府協賛援助の下に南方同胞援護会、日本遺族会等の共催で、昨年十一月二十五日琉球大学体育館で行なわれ、主催者の要請により、全日本仏教会代表として東本願寺連技大谷暢順師、清谷得竜同寺参務、柳全仏国際部長が参列したことは前号で報じたが、一行は翌二十六日、早朝より日本遺族会代表団百余名と、バス三台で各戦跡地を巡拝し、最後に午後三時から最大の激戦地と



れいめいの塔の除幕式のもよう

して当時の軍司令官牛島大将以下血涙をもって自決されたれいめいの塔において、全仏主催、東本願寺、沖繩仏教会協賛の下に大慰霊祭が盛大に行なわれた。
当日は今回日本政府の手によって、新しく改修され、立派に完成した風光明媚な山上において吉田

茂元総理の題字による、「れいめいの塔」前に琉球政府主席、立法院議長、大浜同援会長日本の遺族代表等二百余名が参列し、夫々代表の追悼に引きつゞき焼香がなされた。
式は最初除幕式に引きつゞき、大谷暢順代表導師のもとに、沖繩仏教各宗寺院が出任して厳粛裡に追悼法要が執行され、はるばる日本から参列した遺族も涙を流し、これで肉親が救われたと喜び合っている。慰霊祭は午後五時終了した。なお沖繩派遺仏教代表の滞在中の行動は次の通りであった。



焼香する遺族の慰霊祭場で体育館大琉球

十一月廿三日 午前八時羽田出発
ノースウエスト機で出発し、正午那覇空港着。記者会見(沖繩タイムス、琉球新報)。南方連絡事務所、遺族会等を訪問し懇

談する。
廿四日 大田政作琉球政府行政主席、長嶺秋夫立法院議長、シヤノン米民政府首席民政官を訪問す。
廿五日 午前中部戦跡巡拝。午後二時琉球大学体育館における沖繩戦終結十七周年戦没者慰霊祭(既報)に全仏代表として出席説話をなす。夜は日本、沖繩両遺族会主催の歓迎会に出席。
廿六日 日本遺族会代表九十七名と共にバスで北部戦跡を巡拝説話をなす。午後三時より「れいめいの塔」除幕式に参列(主催南援)。同四時より全仏主催、沖繩仏連協賛の慰霊祭を執行する。(別掲)

廿七日 午前中、米高等弁務官キヤラウエー中将を訪問し懇談。午後沖繩刑務所で収容者五十四名全員を前にして特別講演をなす。夜は沖繩仏連との懇談会に出席す。
廿八日、廿九日 琉球大学をはじめ各施設を訪問、その他宗教、教育、社会事業施設等を視察。
卅日 午後六時福岡板付空港着の日航機にて帰国。

沖繩仏教会からの要望

○沖繩訪問の仏教各宗派、団体は総べて沖繩仏教会を通じて接渉されたい。○仏教図書センターを建設予定につき寄贈書の協力方を依頼すること。○全仏に加盟の意向があること。○宗教法人関係資料の送付を依頼する。
なお沖仏関係者との懇談会では新興宗教の進出を憂慮し全仏の援助と連携を保ちつつ教化の実を挙げたいの意向が強く打ち出された

九州大会あれこれ

いよいよ近まった第十一回全日本仏教徒会議九州大会は、聖徳太子生誕一三九〇年を記念してと云う中心命題にふさわしく、六月三日第一日を迎えることになった。文化人の協力が目立って、その日の盛観が今から予想されている。詳しくはそのプログラムの完成と共に発表されるはず。なお記念講演として、東本願寺新門主の大谷光紹師が決められていることにも新時代感覚に期待される何物かがわくようである。
また各界に聞くに代って、体協会長であり文化人である石井光次郎氏、実業界代表の出光佐三氏共に福岡県出身の両氏のことには大きな期待がもたれている。
とまれ既催十回の大会にない各宗本山別院の現場にない、この度の大会については最初から何とも心もとなないものが有ったが、西本願寺会館にその準備事務局が設けられて以来、本願寺福岡教区内の組長会の協力申合せまで成されて北島隆啓所長はじめ、中村文人賛事のゆきわたった事務運営戸田和子主事の明快さと、会館全員の総協力態勢は、何よりもたのものしい限りである。そこに阿理灯議長の率先垂範の実践が華々しい。旧ろう十二月十日、十二日の全仏狩野組織局長、吉井同部長の来福を機に、大会の構想は決められたのである。全日仏婦、全日仏青についてのことは、一月二十二日仏婦、仏青の船口、仲田両代表者の来福を中心に、県内各宗派の仏婦、仏青

沖繩へ仏教書寄贈につき協力を

既報の通り沖繩仏教界では、布教資料、各種仏教書の送付方について全仏あてに要請して来ているが、これを本誌上で知った鈴木鍊成師(宮城県女川町妙照寺住職)は、早速自著(ビルマの墓標)十八冊を送って来た。
なお沖繩仏教界には、妙心寺派(八)、東寺派(六)、本派(一)、大派(一)、高野山(一)、日蓮宗(一)計十八ヶ寺が有り沖仏に加盟しているが、他に日蓮正宗、創価学会会館各一があることが訪沖代表によって明かにされた。

